

平成31年6月2日(日)

第7回腎臓病療養指導士講習会

東京医科歯科大学 M & Dタワー 鈴木章夫記念講堂

主催: 日本腎臓病協会

1. 腎臓病療養指導士制度について



吉祥寺あさひ病院 腎臓内科

東京医科大学 腎臓内科学分野

安田 隆



CKD療養指導の実践のために重要な 2つのキーワード

包括的CKD診療を基本とした標準治療
(診療指針)の正しい理解

理論(診療指針) ⇒ 実践

1. 多職種によるチーム医療
2. かかりつけ医と専門医(専門施設)との
医療連携・病診連携

多職種によるCKDチーム医療

疾患と患者さんに関する知識の共有

生活指導

服薬指導

看護師

薬剤師

療法選択

臨床工学技士

理学療法士/作業療法士

管理栄養士

リハビリテーション

MSW



栄養指導

社会福祉/介護

腎臓専門医 医師 各科専門医



かかりつけ医(連携医)

多職種の介入により改善が期待されること

保存期CKDの治療・管理目標の達成、トータルケア

- 腎予後(透析導入・腎機能低下速度)(FROM-Jなど)
- 生命予後
- 貧血
- 計画導入率(シャント作成)
- 腹膜透析(PD)の選択率
- 入院回数、入院期間の短縮
- 受診継続、専門医への紹介・逆紹介率(FROM-J)

CKD患者の腎・生命予後および生活の質(QOL)の向上
希望に応じた療法選択、医療費の節減？

「腎臓病療養指導士」設置検討の背景

- ✓ CKDの診療においては多職種でのチーム医療、病診連携が重要である
- ✓ CKD指導の具体的治療目標は示されているが、これを十分に達成できていない(エビデンス実践ギャップ Evidence-Practice gap)
- ✓ 地域によりCKD診療を行うスタッフに過不足がある(地域格差)
- ✓ 職種以外の領域の知識は必ずしも十分ではなく、また、職種間で指導内容が必ずしも統一されていない

➡ CKD患者の予後・QOL改善のためには、共通の基本知識を持ち、チーム医療の中でこれを正しく実践できる CKD療養指導の担い手を幅広く養成する必要性

➡ 腎臓病療養指導士(仮称)の検討が2007年に始まり、2017年度にスタート。

腎臓病療養指導士創設のための合同委員会 への参加団体

医師 : 日本腎臓学会
日本医師会

看護師 : 日本腎不全看護学会/日本看護協会

管理栄養士 : 日本栄養士会

薬剤師 : 日本腎臓病薬物療法学会

合同委員会、および教育研修小委員会および試験認定小委員会を組織し、2017年度に初認定。

2018年「NPO法人日本腎臓病協会」設立

Japan Kidney disease Association; JKA

腎臓病を予防し、重症化を防ぐ；腎臓病克服へ向けて
多職種・団体との連携による心暖かい医療の展開をはかる

普及啓発・診療連携

慢性腎臓病CKDの予防、早期発見
各地の診療連携体制の構築

Kidney Research Initiative- Japan

薬剤、診断法、機器開発支援
プラットフォーム構築

日本腎臓病 協会

腎臓病療養指導士

療養指導士の育成
制度運営

患者会・関連団体連携

各腎疾患患者会との連携
交流、意見交換

HP : <https://j-ka.or.jp/educator/>

腎臓病療養指導士制度

[HOME](#) > [腎臓病療養指導士制度](#) > [腎臓病療養指導士について](#)

腎臓病療養指導士について

[指導士一覧](#)

[ダウンロード資料集](#)

[過去の認定試験](#)

[腎臓病療養指導士認定のための講習会](#)

腎臓病療養指導士について

日本腎臓学会では、日本腎不全看護学会、日本栄養士会、日本腎臓病薬物療法学会と共同で、標準的なCKDの保存療法を現場に浸透させることを目的に腎臓病療養指導士制度を立ち上げました。

「腎臓病療養指導士」は、職種横断的な、CKD療養指導に関する基本知識を有した方を育てるための資格で、対象は看護師、管理栄養士、薬剤師の3分野の方々です。

なお、講習会の受講は、今後行われる予定の腎臓病療養指導士認定試験の応募要件の一つとなります。

腎臓病療養指導士 e-learning研修

HOME > 腎臓病療養指導士制度 > 腎臓病療養指導士 e-learning研修

腎臓病療養指導士について

指導士一覧

ダウンロード資料集

過去の認定試験

腎臓病療養指導士認定のための講習会

腎臓病療養指導士 e-learning 研修

・症例研修e-learning

・腎臓病療養指導関連講習e-learning

・腎臓病療養指導士認定のための講習会（最新）ビデオ

腎臓病療養指導士 e-learning研修について

日本腎臓病協会は、他施設での研修を行なうことが困難な方のために、腎臓病療養指導士認定試験用に代替ビデオ研修（症例研修e-learning）をご用意いたしました。

症例研修

症例研修e-learning ▶

腎臓病療養指導関連講習

腎臓病療養指導関連講習e-learning ▶

腎臓病療養指導士認定のための講習会（最新）ビデオ

腎臓病療養指導士認定のための講習会（最新）ビデオを見る ▶

- 「腎臓病療養指導士認定のための講習会ビデオ」は自己学習用のものです。

「腎臓病療養指導士」の基本的考え方

医療施設および地域におけるCKD療養指導の担い手

- 対象は、看護師、管理栄養士、薬剤師の3職種
- 療養指導の対象は保存期CKD患者に限定
- チーム医療と医療連携により、それぞれの医療環境において質の高いCKD療養指導を提供する
- 資格取得はCKDの療養指導に関する職種横断的な基本知識および「療養指導」の実地経験を問うものとする
 - ・ 他の領域の高度専門知識は必ずしも必要としない。
 - ・ 「CKD診療ガイド」「医師・コメディカルのための慢性腎臓病生活・食事指導 マニュアル」を習得しているレベルが目安

参考テキスト

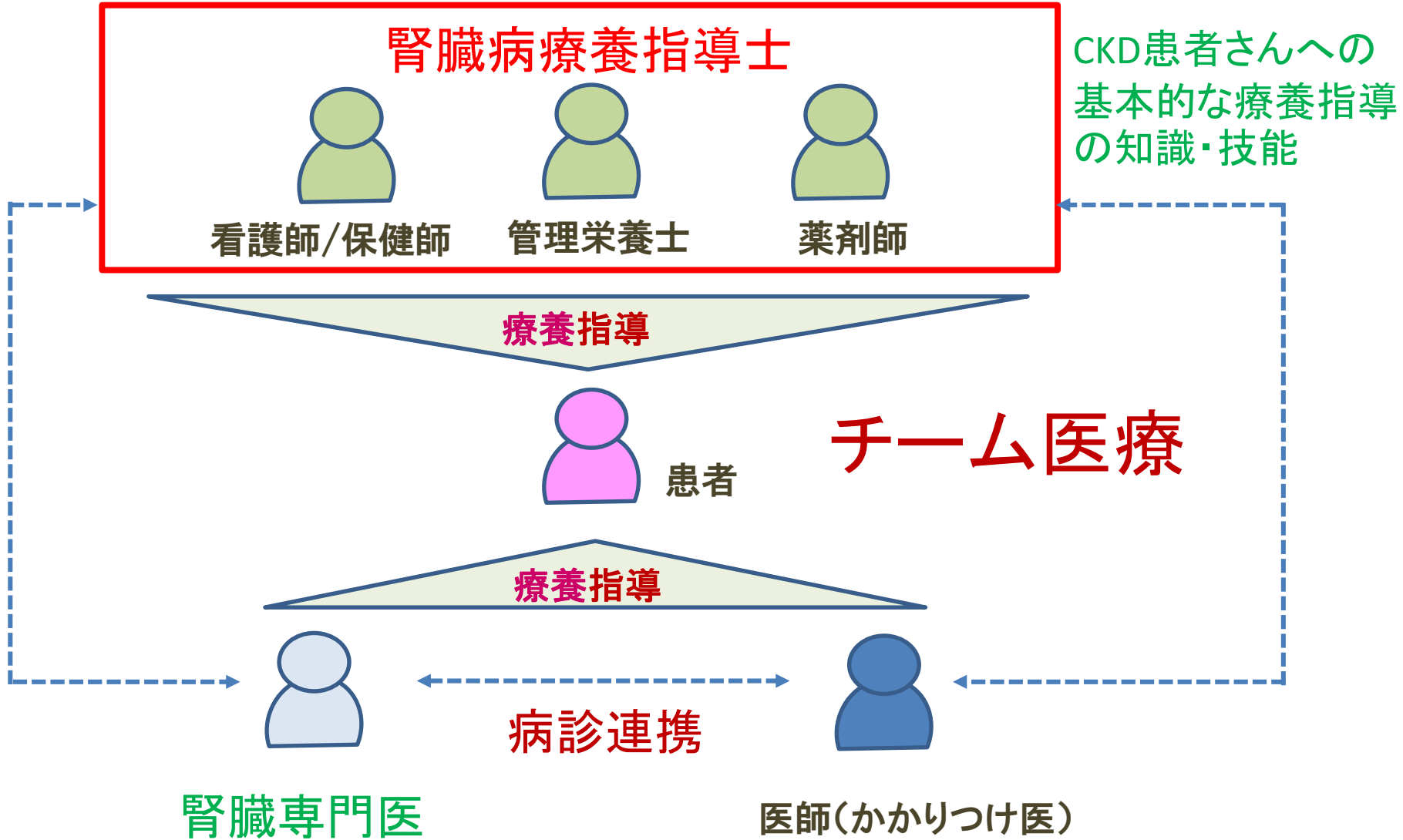
- CKD診療ガイド2012(第2版)
 - ➡ 一般医(非腎臓専門医)およびその他の医療者向けの診療指針
- 医師・コメディカルのための「慢性腎臓病 生活・食事指導 マニュアル」
- 講習会資料(CKD診療ガイドライン2018内容を反映)



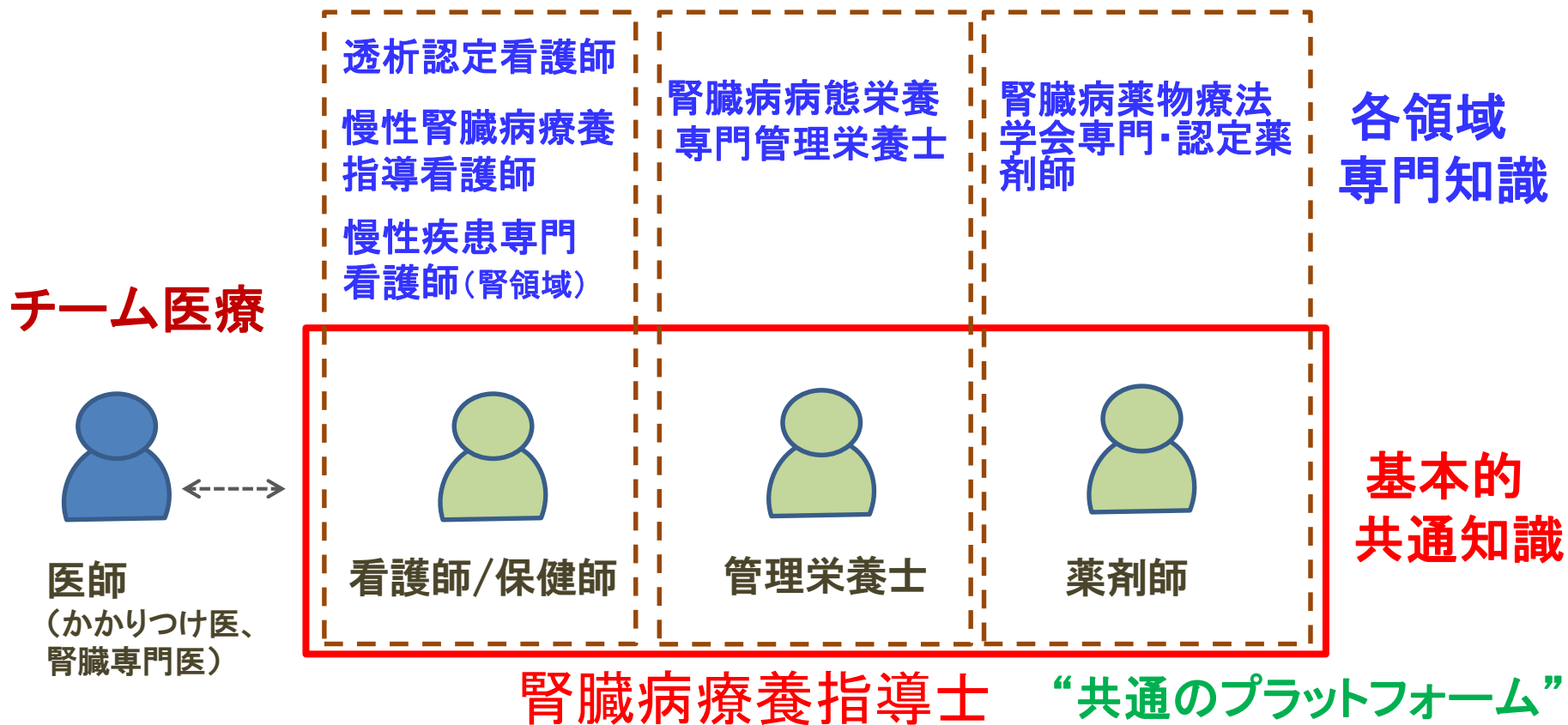
腎臓病療養指導士の役割

1. CKDの意義、**CKDに関する基本的な知識と対策**、およびCKDの予防について 理解・習熟している
2. ステージに応じた**保存期CKD患者**への基本的管理方法を理解し、個別のCKD患者に対して**ステージに応じた包括的かつ基本的な療養指導**(生活指導, 栄養指導, 薬物指導)を行うことができる
3. CKDに関して**腎臓専門医や他の医療従事者と円滑な連携**がとれ、**チーム医療**に参加することができる
4. 腎代替療法についての基本的知識を有し、3つの**療法選択(血液透析, 腹膜透析, 腎移植)**に関する説明を行うことができる
5. AKIの基本的知識を持ち、その予防策について指導することができる
6. 自らの指導技術を高める活動を継続する
7. 後進の指導を行い、腎臓病療養指導士の育成に努める
8. CKDの啓発活動に努める
9. 地域の行政機構、医師会などと連携してCKD 対策を推進する
10. 腎臓病療養指導活動の普及に努める
11. CKDの臨床研究への参加に努める

腎臓病療養指導士のイメージ



腎臓病療養指導士と各専門資格の関係



*各領域の専門資格は、腎臓病療養指導士の取得を必要とするものではない

腎臓病療養指導士の様々な形

① 基幹病院

- ・・・チーム医療における各領域の有専門資格者を中心とした役割、質の向上

② 一般病院・クリニック勤務者

- ・・・非専門医・かかりつけ医のサポート

③ それ以外で実地医療に携わる者（保健師、薬局薬剤師、行政栄養士など）

- ・・・地域のCKD対策、後方支援、医療連携の促進

腎臓病療養指導士の要件概要(1)

1. 対象

- 看護師、管理栄養士、薬剤師のいずれかの資格を有し、**資格取得後3年以上経過**している者

2. 認定試験の応募要件

1) 療養指導の実務経験

- 過去10年以内に通算2年以上、かつ通算1000時間以上腎臓病患者の療養指導業務に従事していること

2) 研修

- 所定の施設で、各職種の指導を10例以上かつ各職種最低2例以上研修すること(症例リスト・症例要約を提出し合格する)

3) 講習会の受講(5年間有効)

腎臓病療養指導士の要件概要(2)

1) 療養指導の実務経験

- 過去10年以内に通算2年以上、かつ通算1000時間以上腎臓病患者の療養指導業務に従事していること
- ※ 実務経験を満たさない者で、各職種の専門資格(応募要件2)備考に記載)を有さない者は、2)の研修において、③2に相当する研修(日本腎臓学会研修施設における研修、または症例研修e-learning)を行うこと。

腎臓病療養指導士の要件概要(3)

2) 研修

① 研修内容

- 以下の研修を10例以上かつ各職種最低2例以上行う
 - (1) 腎臓内科医師による保存期CKD患者の外来見学
 - (2) 看護師による保存期CKD患者の療養指導・療法指導の見学または実施
 - (3) 管理栄養士による保存期CKD患者の栄養指導の見学または実施
 - (4) 薬剤師による保存期CKD患者の服薬指導の見学または実施

② 研修の証明

- 所属する専門資格および研修場所に応じて、必要数の研修を証明する症例リスト、およびそれらの症例中で各職種毎の症例要約を提出すること(内容について委員会での承認が必要)

腎臓病療養指導士の要件概要(4)

③ 研修場所

- a. 自施設研修;施設基準を満たす施設を満たす場合
- b. 他施設研修;日本腎臓学会研修施設において
 - ※ 他施設研修が難しい場合;代替ビデオ研修

※ 施設基準

日本腎臓学会が認定する腎臓専門医の常勤医または非常勤医、または10年の会員歴を有する日本腎臓学会所属の常勤医がおり、かつ、腎臓病患者の内科外来診察および患者教育・指導が恒常的に行なわれている看護師、管理栄養士、薬剤師の3職種が在籍する施設

(常勤、非常勤は問わない・透析実施の有無は問わない)

腎臓病療養指導士の要件概要(5)

※ 必要症例リストおよび症例要約提出数

1) 他施設研修

- 異なる10症例のリスト及びその10例中で4職種毎に各2例(合計8例)の症例要約を提出

2) 自施設研修

- 研修した症例中の異なる10症例のリスト及びその10例中で自身の職種を除く3職種毎に各2例、合計6例の症例要約を提出。

3) 各職種の専門資格を有する場合(スライド13参照)

- すべての提出を免除

腎臓病療養指導士の要件概要(6)

※ 代替ビデオ研修(症例研修e-learning)

- 他施設での研修が難しい場合
- 日本腎臓病協会のホームページ掲載の症例研修e-learning (症例の同一受診時に4職種すべての関わりを示したセット)のうち異なる2セットを受講し、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師それぞれについてのレポート、合計8レポートを提出する

3) 講習会の受講(5年間有効)

委員会主催の講習会(年1回)を受講(必須要件;受講証を提出)

腎臓病療養指導士認定のための講習会 (2019年度認定試験用)

プログラム:

1. 腎臓病療養指導士について
2. 慢性腎臓病(CKD)とは何か?(医師)
3. CKDの管理について(医師)
4. CKD患者の療養生活支援(看護師)
5. CKD患者の療法選択の指導(看護師)
6. CKDの薬学的管理と服薬指導(薬剤師)
7. CKDのステージ別の食事指導(管理栄養士)
8. CKDにおけるチーム医療について(医師)

腎臓病療養指導士認定試験

認定試験の応募要件1)～3)を満たす場合

4. 認定試験(毎年1回)

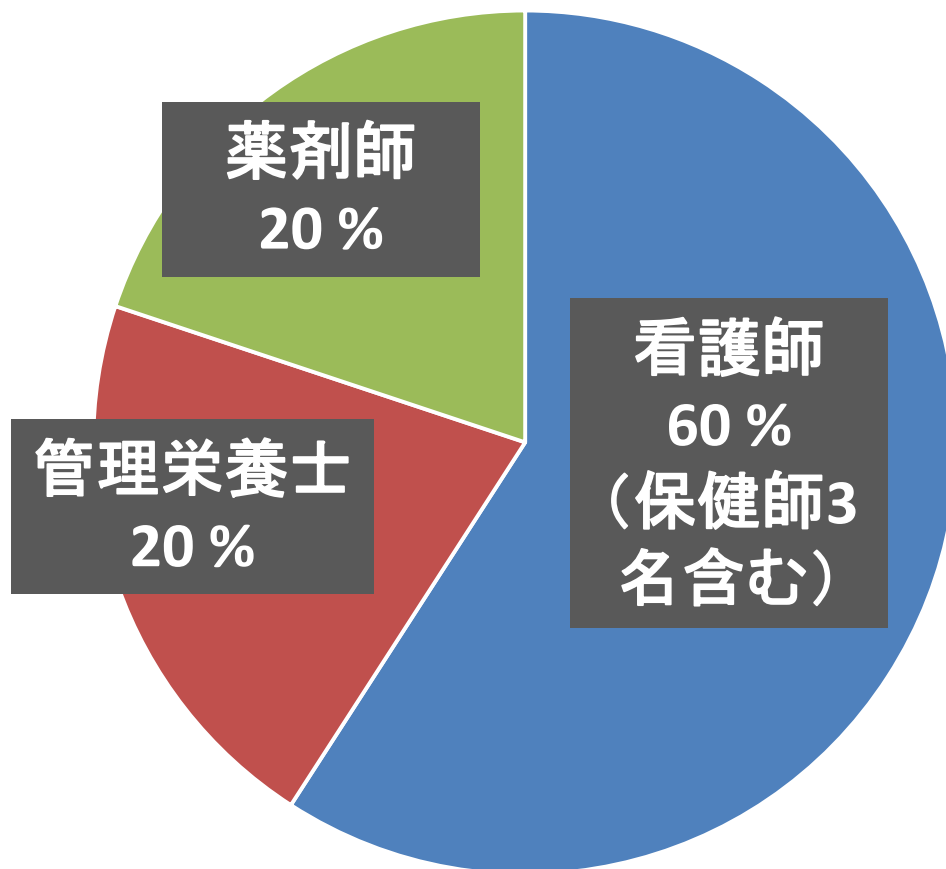
実務経験、応募要件1)～3)、そして認定試験の結果のすべてを評価し、日本腎臓病協会による認定とする

現在の腎臓病療養指導士

第1回腎臓病療養指導士認定試験（2018年度）：734名

第2回腎臓病療養指導士認定試験（2019年度）：317名

総計：1051名



腎臓病療養指導士更新要件の概要(1)

1. 療養指導の実務経験

- 過去5年以内に通算2年以上,かつ通算1000時間以上,腎臓病患者の療養指導業務に従事していること
- 諸事情により所定の実務経験を満たさない場合は更新要件3(症例研修)の10単位取得をもってこれに代えることができる

2. 必要単位数の取得

- 資格取得後5年間で30単位以上の取得を更新要件とする
- 単位取得の更新要件
 - (1)腎臓病療養指導士合同委員会認定学会への参加
 - (2)腎臓病療養指導士合同委員会認定講習会の聴講
 - (3)症例研修e-learning受講(日本腎臓病協会HP);レポート提出
 - (4)講習e-learning受講(日本腎臓病協会HP);試験解答提出

腎臓病療養指導士更新要件の概要(2)

3. 更新要件

| | 下記のいずれかの年次集会の参加 | 単位 | 備考 |
|-----------|---|---------|---------------------|
| 1 | 1) 日本腎臓学会学術総会 | 1) 10単位 | 学会参加証のコピーが必要 |
| | 2) 日本腎臓学会学術大会(東部・西部学術大会) | 2)~5) | |
| | 3) 日本腎不全看護学会 | 各5単位 | |
| | 4) 日本腎臓病薬物療法学会 | | |
| | 5) 食事療法学会 | | |
| 2 | 下記のいずれかの学会・団体が主催する(学術集会内も含む)腎臓病療養指導に関する企画・研修への参加 | | |
| | 1) 日本腎臓学会 | 参加で各5単位 | 講習会受講を証明する書類のコピーが必要 |
| | 2) 日本腎不全看護学会 | | |
| | 3) 日本腎臓病薬物療法学会 | | |
| 4) 日本栄養士会 | | | |
| 3 | 症例研修e-learning | | |
| | 日本腎臓病協会のホームページ掲載の症例研修。症例の同一受診時における4職種すべての関わりを示したビデオセットを受講する。受講後、レポートに回答する。複数のセットの受講が可能。 | 10単位/回 | 受講料 1万円/回 |
| 4 | 講習e-learning | | |
| | 日本腎臓病協会のホームページ掲載の腎臓病療養指導に関する講習会ビデオの受講。受講後、小テストに回答する。複数の講習会ビデオの受講が可能。 | 10単位/回 | 受講料 1万円/回 |

* 別途、更新料として1万円

医師をサポートし
チーム医療の一員と
なる！

CKD療養指導全般
の
基本知識

講習・筆記試験



CKD療養指導全般
の
実務経験

研修・レポート

「腎臓病療養指導士」制度へのご理解、ご協力をお願いいたします

・ ・ ・ **ご清聴ありがとうございました**